

松長小学校の現状と今後の在り方について

1 はじめに

学校は、子どもたちが明るい将来を築いていくために、学力・体力を身に付け、心の豊かさや集団性・社会性を育む大切な場であると考えています。

しかしながら、本市の児童生徒数は長期間に渡り減少し、この傾向は今後も継続すると見込まれており、松長小学校においても、同様の傾向にあります。

このことを踏まえ、市教育委員会では、より良い教育環境の下で、子どもたちが生き生きと学校生活を送れるよう、松長小学校の今後の在り方について、地域の皆さんと十分に協議を行ってまいります。

2 松長小学校の児童数と学級数の推移について

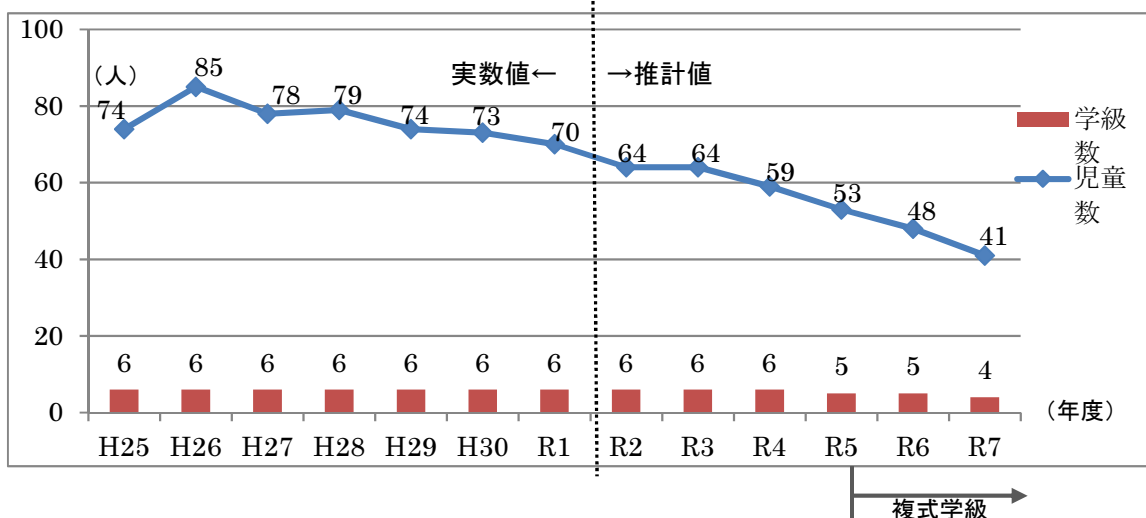
(1) 松長小学校の学校規模

今後の松長小学校の学級数は、現在の小規模校である1学年1学級を令和4年度末までは維持できますが、令和5年度からは複式学級が生じ、過小規模校となります。

【松長小学校の児童数・学級数の推移と今後の見込みについて】 (H31.4 現在)

年度	項目	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年	計	備 考
平成25年度	人 数	11	12	15	9	19	8	74	
	学級数	1	1	1	1	1	1	6	
平成26年度	人 数	19	11	12	15	9	19	85	
	学級数	1	1	1	1	1	1	6	
平成27年度	人 数	12	19	11	12	15	9	78	
	学級数	1	1	1	1	1	1	6	
平成28年度	人 数	10	12	19	12	12	14	79	
	学級数	1	1	1	1	1	1	6	
平成29年度	人 数	11	10	11	19	12	11	74	
	学級数	1	1	1	1	1	1	6	
平成30年度	人 数	10	11	10	11	19	12	73	
	学級数	1	1	1	1	1	1	6	
令和元年度	人 数	11	10	11	10	10	18	70	
	学級数	1	1	1	1	1	1	6	
令和2年度	人 数	12	11	10	11	10	10	64	
	学級数	1	1	1	1	1	1	6	
令和3年度	人 数	10	12	11	10	11	10	64	
	学級数	1	1	1	1	1	1	6	
令和4年度	人 数	5	10	12	11	10	11	59	
	学級数	1	1	1	1	1	1	6	
令和5年度	人 数	5	5	10	12	11	10	53	複式学級：1学級 (2・3学年)
	学級数	1	1	1	1	1	1	5	
令和6年度	人 数	5	5	5	10	12	11	48	複式学級：1学級 (2・3学年)
	学級数	1	1	1	1	1	1	5	
令和7年度	人 数	4	5	5	5	10	12	41	複式学級：2学級 (2・3学年)と(4・5学年)
	学級数	1	1	1	1	1	1	4	

【児童数と学級数の推移】



【学級数による学校規模の分類（小学校）】

学校規模の分類	過小規模校	小規模校	適正規模校	大規模校	過大規模校
学級数	※ 1～5	6～11	12～18	19～30	31以上

新潟県学級編制基準【小学校部分の抜粋】

- 1 同学年の児童で編制する1学級の児童数は、第1学年では原則として35人以下とし、第2学年から第6学年までは原則として40人以下とする。ただし、第1・2学年に限り、32人以下の編制にする場合は同意する。
- 2 引き続く2の学年の児童数の合計が16人以下の場合は、1学級編制とする。
ただし、新1学年の児童を含む学級にあっては、8人以下を1学級編制とする。

【複式学級によるクラス遍歴】

例えば、令和5年4月に入学したAさんの場合

- 1年生の時は、同じ年同士の5人のクラスで過ごします。
- 2年生になると、上級生の3年生と複式となり10人のクラスとなります。
- 3年生になると、下級生の2年生と複式となり10人のクラスとなります。
- 4年生になると、全学年が複式となり松長小学校に3クラスしかなくなり、下級生の3年生と複式となり10人のクラスで過ごします。
- 5年生になると、上級生の6年生と複式となり10人のクラスとなります。
- 最終学年の6年生になると、下級生の5年生と複式となり10人のクラスで過ごし卒業です。

Aさんは、毎年上級生と下級生が入れ替わりクラスメートになる、変則的な小学校時代を過ごすこととなります。

(2) 松長小学校の学校規模の特色について

現在の松長小学校は、1 学年 1 学級の小規模校であり、「クラス替えがないために人間関係や序列関係が固定化する」、「協調性や社会性を育みにくい」、「教職員の数が少ないため、行事等の準備や運営が大変である」等の課題はあるものの、児童数が少ないことで落ち着いた環境となりやすく、学校生活全般において教職員の目がよく行き届くというメリットがあります。

しかし、複式学級が生じ、過小規模校（いずれは全校 3 学級の極小規模校になる可能性大）となることで、デメリットが増えていく心配があります。以下は、その一例です。

【学習面】	現在	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業や体験活動、校外学習において、児童数が少ないため、個別のきめ細かな指導が行いやすくなります。 ○ 児童数が少ないことから、体験学習等を取り入れても、学習進度が遅れることが少なくなります。
	R5年度以降	<p style="text-align: center;">↓</p> <p>複式学級については、指導者は1人に対して、2つ以上の学年で1学級を構成することから、1つの学年を先生が教えている時に、もう1つの学年は自力で、又は子ども同士で相談しながら問題を解く等の授業形態となります。よって、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 問題を解いている時に、先生は他学年を教えていることから、個別のきめ細かな指導は難しくなる。学習進度の遅れも心配です。 ○ 児童数が減少するほど、集団で運動の楽しさや競い合う楽しさを学ぶことのできる体育学習（サッカー等）が難しくなる。他にも、音楽関係で支障が生じてきます。
【生活面】	現在	<ul style="list-style-type: none"> ○ 異学年間の縦の交流が生まれ、行事や活動において全校生徒がよくまとまり、助け合いの心が育まれます。
	R5年度以降	<p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 複式学級は常に異学年で構成されているため、下級生は上級生に依存する傾向が強くなり、同学年で助け合ったり競い合ったりすることが少なくなる心配があります。

【学校運営面】	現在	○ 教員の配置が少なく、教員だけでは大きな行事の実施が難しくなります。
	R5年度以降	<div style="text-align: center;">↓</div> ○ さらに教員の配置が少なくなり、これまで以上に行事や校外学習の引率の際に、教員だけで実施できず、保護者や地域住民の協力が必要となります。 ○ 全校児童は少なく、複式が3学級という事態がくると、担任3名で6学年の児童を指導しなくてはならず、これまで以上に一人ひとりに目が届かなくなります。

3 松長小学校の今後の在り方に係る検討の進め方について

(1) 地域での懇談会の開催について（10月23日開催）

対象者：燕市議会議員、自治会長、燕北地区まちづくり協議会代表、松長小学校PTA代表、松長小学校長

協議内容：地域説明会の開催や「松長小学校の今後の在り方検討会（仮称）」の設立など、事前に地域の代表者の皆さん等と意見交換を行いました。



(2) 地域説明会の開催について（本日開催）

対象者：松長小学校区の地域住民及び児童の保護者

説明内容：松長小学校の現状と将来の児童数及び学級数や「松長小学校の今後の在り方検討会（仮称）」の設立について説明します。



(3) 「松長小学校の今後の在り方検討会（仮称）」の設立について

対象者：自治会長、燕北地区まちづくり協議会代表、松長小学校PTA代表、松長小学校長、松長小学校評議員、地元こども園・保育園代表

協議内容：今後、本校では、児童数が減少するなか、子どもたちにとってより良い教育を進めていくうえで、複式学級による学校の存続か統合かを検討します。

仮に統合が相応しいと判断した場合は、統合先や統合条件などを検討します。

4 今後のスケジュールについて

今後のスケジュールについては、令和5年度の複式学級を踏まえ、「松長小学校の今後の在り方検討会（仮称）」において協議します。

参 考 資 料

1 国の学校規模の適正化に関する基本的な考え方

出典：文部科学省「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」抜粋

(1) 教育的な観点

- ① 学校規模の適正化を図るうえでは、第一に学校の果たす役割を再確認する必要があります。義務教育段階の学校は、児童生徒の能力を伸ばしつつ、社会的自立の基礎、国家・社会の形成者としての基本的資質を養うことを目的としています。このため、学校では、単に教科等の知識や技能を習得させるだけでなく、児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて思考力や表現力、判断力、問題解決能力などを育み、社会性や規範意識を身に付けさせることが重要になります。そうした教育を十全に行うためには、一定の規模の児童生徒集団が確保されていることや、経験年数、専門性、男女比等についてバランスのとれた教職員集団が配置されていることが望ましいものと考えられます。このようなことから、一定の学校規模を確保することが重要となります。

- ② 学校規模の適正化の検討は、様々な要素が絡む困難な問題ですが、飽くまでも児童生徒の教育条件の改善の観点を中心に捉え、学校教育の目的や目標をより良く実現するために行うべきものです。各市町村においては、これからの時代に求められる教育内容や指導方法の改善の方向性も十分勘案しつつ、現在の学級数や児童生徒の下で、具体的にどのような教育上の課題があるかについて総合的な観点から分析を行い、保護者や地域住民と共通理解を図りながら、学校統合の適否について考える必要があります。

(2) 地理的要因や地域事情による小規模の存在

特に山間へき地、離島といった地理的な要因や、過疎地など学校が地域コミュニティの存在に決定的な役割を果たしている等の様々な地域事情により、学校統合によって適正規模化を進めることが困難であるとする地域や、小規模校を存続させることが必要であるとする地域も存在するところであり、こうした市町村の判断も尊重される必要があります。

2 燕市建物系公共施設保有量適正化計画での学校教育施設について

本市では、平成 31 年 3 月に「燕市建物系公共施設保有量適正化計画」を策定し、その中で小中学校については、将来的な児童生徒数の動向を踏まえ、学区の見直しや統廃合などの適正配置について、「見直しの検討段階や時期^{*}」が到来した学校から順次検討を進めることとしております。

このことから、本計画に基づき、松長小学校区の地域住民や保護者の皆さんと同校の今後の在り方に係る検討を始めることといたします。

※「燕市建物系公共施設保有量適正化計画」にある学校教育施設（小・中学校）の見直しの検討段階や時期については、以下のア)～ウ)のとおりです。

ア) 児童生徒数の減少により複式学級となることが見込まれる段階

イ) 宅地開発等の影響により、児童生徒が一部の地域に集中し、その数の大幅な増加が見込まれる段階

ウ) 老朽化により、学校の建て替えが必要となる時期

3 学校施設の状況について

No.	項目	概要
1	所在地	燕市舘野 1204 番地
2	学区	松橋、長渡、舘野、長所
3	敷地面積	10,313 m ²
4	構造	校舎：鉄筋コンクリート造一部鉄骨造 3 階建て 体育館：鉄骨造平屋建て
5	延べ床面積	2,242 m ² （校舎 1,614 m ² 、体育館 628 m ² ）
6	改修等の履歴	校舎：昭和 38 年建築、昭和 41 年増築、平成 2 年増築 平成 17・18 年大規模改造工事、耐震補強工事 体育館：昭和 51 年建築、平成 17・18 年耐震補強工事

4 県内小学校の統廃合状況【平成29年度から平成31年度】

【平成29年度～】 () 内は学級数

市町村	統合先の学校	学校規模
新潟市	阿賀小学校 (11)	小規模
上越市	浦川原小学校 (6) (下保倉小学校)	小規模
長岡市	小国小学校 (6) (洩海小学校)	小規模
三条市	裏館小学校 (17)	適正規模
十日町市	田沢小学校 (7)	小規模
佐渡市	河崎小学校 (6)	小規模
阿賀野市	安田小学校 (15)	適正規模

廃校となった学校	学校規模
満日小学校 (5)	過小規模
下保倉小学校 (6)	小規模
末広小学校 (5)	過小規模
中保倉小学校 (3)	極小規模
上小国小学校 (4)	過小規模
洩海小学校 (6)	小規模
下小国小学校 (6)	小規模
三条小学校 (6)	小規模
倉俣小学校 (3)	極小規模
両尾小学校 (4)	過小規模
赤坂小学校 (6)	小規模
山手小学校 (5)	過小規模



【平成30年度～】 () 内は学級数

市町村	統合 (新設含む)	学校規模
新潟市	葛塚東小学校 (23)	大規模
上越市	有田小学校 (19)	大規模
糸魚川市	大和川小学校 (7)	小規模
	青海小学校 (6)	小規模
長岡市	岡南小学校 (6) (山谷沢小学校)	小規模
	栃尾南小学校 (11)	小規模
新発田市	東小学校 (14)	適正規模
三条市	大崎学園 (18)	大規模
佐渡市	河原田小学校 (6)	小規模

廃校	学校規模
太田小学校 (6)	小規模
小猿屋小学校 (6)	小規模
浦本小学校 (3)	極小規模
市振小学校 (2)	極小規模
六日市小学校 (6)	小規模
山谷沢小学校 (6)	小規模
中野俣小学校 (2)	極小規模
松浦小学校 (6)	小規模
五十公野小学校 (6)	小規模
米倉小学校 (4)	過小規模
大崎小学校 (6)	小規模
沢根小学校 (4)	過小規模



【平成31年度～】 () 内は学級数

市町村	統合 (新設含む)	学校規模
南魚沼市	おおまき小学校 (6)	小規模
村上市	朝日さくら小学校 (6)	小規模
	さんぼく小学校 (6)	小規模
	小川小学校 (6)	小規模
	瀬波小学校 (11)	小規模
阿賀町	上川小学校 (6)	小規模
	津川小学校 (6)	小規模

廃校	学校規模
五日町小学校 (6)	小規模
大巻小学校 (6)	小規模
猿沢小学校 (5)	過小規模
塩野町小学校 (6)	小規模
さんぼく南小学校 (6)	小規模
さんぼく北小学校 (5)	過小規模
三面小学校 (4)	過小規模
上海府小学校 (3)	極小規模
上条小学校 (4)	過小規模
西川小学校 (4)	過小規模
三郷小学校 (3)	極小規模
鹿瀬小学校 (4)	過小規模
日出谷小学校 (3)	極小規模

